



2025年6月6日

日本鉄道労働組合連合会

## 田村まみ参議院議員

# 福岡厚生労働大臣に対し労働組合の重要性を問う！



JR連合「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する田村まみ参議院議員は6月3日、参議院厚生労働委員会において、労働政策審議会「労働条件分科会」で議論が進む「労働基準関係法制」の見直しに向けた議論を取り上げ、福岡資麿厚生労働大臣に対し、“労使コミュニケーションの中核を担う労働組合の組織化が重要”である旨の指摘を行った。

田村議員はまず、労働組合法で権利が保障される労働組合という仕組みがある中で、“過半数”の労働組合がない職場においては、経団連が提案する「労使協創協議制」といった新たな代替的措置等の導入も念頭に議論されていることに警鐘を鳴らし、「全てを否定しないが、せめて労働組合の組織化を労使に促す仕組みを設ける前提で議論すべき」旨指摘。

## 労働条件分科会、労組の成功事例も取り上げ議論すべきと指摘

これに対して福岡大臣は、「労働者が働きやすい環境を作る大変重要な役割を担う」と労働組合の重要性を認めつつも、その「結成や加入は基本的に労使の自治による」と説明し、厚労省としては労組法を含む労働関係法令や労働組合の重要性の周知に取り組むとの答弁に留めた。



これらを受けて田村議員は最後に、議論は過半数労組がない場合の代替措置の話に傾きがちだが、賃上げの成果など労組の“成功事例”も取り上げて議論すべき旨指摘し、質問を終えた。

JR連合も同日、同様の主張で厚労省への要請を行い、実務担当者らと意見交換を実施した。引き続き田村議員とも連携を図り、労組や労使関係の重要性に係る議論を喚起していく。